

トマス・ウイン書簡 その一

鈴木 進 訳

日本のプロテスタント教会の歴史の中で、トマス・C・ウインの位置は地方伝道との関りにおいて、特に重要であったといえるだろう。若き日に外国伝道を志し、アメリカを後にする時に、日本の中でも「福音の伝えられない田舎」に遣わされることを強く望み、その願い通り伝道生活の大部分は金沢を中心とした北陸地方と満州に捧げられた。ウインの生涯と働きについては中沢正七編『トマス・ウイン伝』に詳細を譲ることとする。

一九八五年、北陸学院は創立百周年事業のひとつとして英文 *THE LETTERS OF THOMAS CLAY WINN, edited by Susumu Suzuki* を出版した。筆者はその書物を編む作業をした時、マイクロフィルムの判読と転写、またタイプライティングの校正をしながら、書簡それ自体は北米長老派ミッション・ボード宛の宣教報告であるが、それらの中に、ウインの生き方と信仰とを示され、大きな励ましと感動を与えられた。その喜びを筆者一人のものとしせず、できるだけ多くの人々と分かちたいと願い、集録されている百十通のうちから六十通を選び日本語に訳してみた。

選択の視点は(一)明治前期、地方伝道のひとつである北陸の宣教を知る資料として (二)大阪、さらに満州における宣教について (三)日

本の近代化に果したキリスト教宣教師の役割について。ウインを中心とした教育および社会福祉事業、教育については特にキリスト教と国家の衝突が地方のミッション・スクールに及ぼした影響について (四)地方における明治期外国人宣教師の生活、および日本人観など、を含む手紙。

今回は六十通のうち、その一、として十五通を載せた。それらは、横浜上陸後、ニューヨークのミッション本部宛第一報と思われる一八七八年二月二十七日付のものから、病氣治療と休暇を兼ね第一回の帰国をするまで(一八八六年)、内容的には(一)北陸地方最初の伝道および金沢教会の成立 (二)石川県中教師範学校教師として、お雇い契約満期に伴う内地雑居禁止条項と住居の問題 (三)長男ウィラードの病氣と召天 (四)愛真学校とミス・ヘッサーによる女学校の創設、などが主なものである。

日本語訳にあたって、いわゆる訳注は付けず、原文が判読できない数ヶ所についてだけ(一)内その旨を記した。

ラウリー博士あて

横 浜
二月二十七日

日本に到着したらすぐに便りをするつもりでおりましたものの、新任の宣教師なら誰もが報告するようなこと以外には何も書くことがなかったものですから、それにその種の報告はいつも聞いていらつしやることですし、興味もあらうはずがないと思つたものですから今日になってしまいました。私たちが無事に着任したことについてはこれまでにバラ師からきつとお聞き及びのことと思ひます。私たちの到着直後に手紙を書かれていましたから。

私共は現在山の手の小さな住宅にて快適な暮しをしております。まことにここがわが家なのだと思えるようになってまいりました。また私共もそのような気がしております。二人とも毎日日本語の勉強をしております。今は日本人の教師ではなく、叔父のブラウン博士が日本語を始めるようにと自分の方から言い出され、それで教わつていゝのです。やつてみるとこの言葉が思うようにすらすら話せるようになるには長いことかかるだろうと思ひます。でも、知らなかつた単語や言い回しが毎日増えていきますから、いつの日かこの日本語を使つて神の御業のために、また魂の救いのために役に立てたいと願つておるものです。日本において御業がかくも不思議に開始されようとしている時に、早く全面的に伝道に飛び込みたいとの思いに駆られることがしばしばあります。しかし先任の方々も今のわれわれのように辛抱強く準備をしなければならなかつたことでしょう。われわれとしては必要とされるあらゆる助けと知恵を祈り求め、日に日に近づくその時のために時を最も尊く保ちたいと願

うものです。

私は今バラ師の学校で教えております。一日三時間生徒の暗唱を聞く仕事です。妻も何もしなない訳ではありません。日本語の勉強や家事の他に数人の生徒に読み方と音楽を教えています。こういった機会はもちろん単なる知育よりもっと重要な価値のあることを教える手立てに用いられております。妻も私もここに住むようになってからきわめて健康には恵まれております。

ちょうど今知つたばかりですが、ウィラード夫人の手紙によると妻の荷物箱は届いたのに私のはまだニューヨークに着いてないとのことですが、どうも訳がわかりません。私の箱の方を先に、そう二週間ほど前に出したのですから。昨年の夏買うつもりだつた書物を日本に着くまで待つたほうが良いと言われて買つていません。本のリストを同封しましたから私宛に送つてほしいのです。百ドルでその全部が買えなかつたらその順番にお金がなくなるまで購入してください。バラ師宛に箱を送つてくださる方の名前を書いた紙片を同封しました。バラ師の分は当地のケリー書店の注文で届くことになっています。私の分をバラ師宛にして、それをパインストリート七十四番地のJ・D・B・ペインまで持つていってください。バラ師のと一緒にならないよう、できるだけ早くしてくださるようお願いいたします。ニューヨークからの船積料が二トン以下なら私が注文した書物の送料はお支払いします。サンフランシスコからミッシェン・ボードに送つた家具の運賃は私が払いますと書きましたが実は負担しませんでした。この書物の送料についてはボードがニューヨークで払つてくださるなら、横浜のバラ師に同額を払います。それでご納得いただけることにならうかと思ひます。本のことでお手を煩わしたくないのですが、あなたを通すとかかなりの割引になる

トマス・ウィン書簡

と聞きましたのでこうするのが賢明かと考えたのです。

この地の宣教師団はまったく気持のよい人たちです。ここで救い主の名によって働けるならきつと幸せなことでしょう。

ノックス夫妻の病気のことはお聞きになっておられるでしょう。心待ちにしていたお子さんは生きながらえませんでした。もしそうでなければご一家に喜びを与えてくれたことでしょう。ノックス夫人はまだ丈夫になっていませんが徐々によくなっています。

ミス・エルドアドが次の聖日にやってきて家に泊ることになっております。私達はめつたに会うことがないのです。

ラウリー、エリンウッド、アーヴィンの先生方に妻から呉々もよろしく申し上げてほしいとのことです。写真は受取られたことでしょうか。

取急ぎ 敬具

T・C・ウィン

横浜

一八七八年三月十八日

ラウリー博士あて

前便では実務上のことで少々書き落したことがありまして、あなたにそれをしていただけましたら幸いです。『週刊ニューヨーク・トリビューン』を予約購読したいのですが、そのようなことを頼める友人がアメリカには他にいないのです。一年分新聞代を払っていただき、それがいくらになるかジョン・バラ師に知らせてくださるならば、日本での私の給料から差引いてもらうようにいたします。あな

た宛に送金するのと同じことになるでしょうから。またロードアイランド州プロビデンス市スノー通四十九番のL・P・メリアム氏に一ドル五十セントを送っていただき、私が送金してほしいと依頼したのだと伝えてください。それはクラス会費の支払いなのです。それ以上何も書かなくても彼にはわかる筈です。バラ師にも知らせて私の口座にまわしていただけたら有難いです。

私達二人とも相変らず元気でいつものように仕事をしております。宣教師の皆さん元気で。先週東京の宣教師会議で皆に会いました。さきほど全員元気で、と書きましたのは間違いでした。バラ夫人がほとんど仕事が出来ないほど、ひどく体の調子を悪くしております。今は少し良くなっていますが。

こちらはほとんど毎日気持のよい天気には恵まれています。そちらにいれば陰うつでじめじめした三月の気候の中で待ちこがれているようなよい天気です。

妻も相変らず健気に頑張っております。

T・C・ウィン

金沢

一八八〇年二月二十八日

ラウリー博士あて

私個人にかかわる問題と金沢での宣教についてお考えいただきたいと思います。伝道団としては私達が金沢に留まる

場合の住宅の問題については全面的に賛成してくれました。伝道団から本部には私達の住宅に関してこの前の会議のもの以外には何の提言もなされてないと思います。会議ではわれわれにとつて最善と思われることは何でもニューヨークの本部に進言しようと話し合われました。これはどうしても必要かつ緊急を要する問題なのでこのように変則的なやり方で本部の同意を取りつけることにしたので。私共が金沢に留まるようになればどうしても住宅を持たない訳にいきません。現在住んでいる所の裏庭には水がいつも溜っているのです。

本部からの許可が日本に届けば、伝道団としてはそのような住宅を建てるのに賛成することでしょう。あれがもし、県との契約が切れた後も二、三年は金沢に留まっておれる見込みがなくなかったなら、住宅を得る手立てなど望まなかつただろうと思えます。だがこの地に留まれるのがわかり次第、すぐにでも工事に取掛れるようにお認めいただきたいのです。そのような訳で、本部に対する正規の進言を待たずして、一個人の資格で手紙を書いたのです。われわれだけの考えですが、家の形と窓だけ洋風で他は日本住宅にするつもりです。手紙をお受取りになったらその後の最初の会議にこの件をご提案願えませんでしょうか。そして議決の結果をできるだけ早く知らせてください。

伝道の業はその初めからひじょうに勇気づけられるものでした。大勢の者が福音の語られるのを聞きにやってきました。さまざまな方法で多くの分冊聖書が人々の間に流布されています。受洗の希望者が十数人おります。そのほとんどの者が心から生ける神に仕えようとしているように思われます。聖霊による生れかわりを経ない者は一人たりともキリスト者として受入れられることのないよう導きたもう

知恵を与えられるようにと祈り求めるものであります。もしも来年以降も留まることが出来るなら、スタートしたばかりの宣教の業はこの町だけに止まらずきつと周辺の地にもどんどん広がり続けることと思えます。イエスの教えを聞きたいと遠方からやってくる人々と出合うことがよくあります。この地に留まって伝道を助けられるなら、それは何たる光栄でしょうか。しかしやってきてからずっと、この内陸部のこのような場所の、しかもほとんど日光の射さない日本家屋での生活は体によくありません。私がお願したい点はここなのです。

金沢に留まってもよいとの許可が下りたなら、可能な限り安い費用で住宅を建てようと思えますが本部としてはお認めくださいますか。快適で健康を害さない必要最小限のものを作るのであつてそれ以上一ドルたりとも使うつもりはありません。今考えている土地と建物あわせて千円か千五百円（日本のお金）以上はしないでしよう。日本の円は現在アメリカドルの五〇パーセント引きです。この相場がどのくらいの期間続くか予想がつきませんが、私達が金沢に来てから徐々に価値が下がっています。もし本部が快く許可して下さるなら、ご一考願いたい。もし願いに反してここに居ることが出来なければ、道はきつと開け、われわれが用いられるようなどこか他の場所へ行けるものと信じております。

バラ夫妻、グリーン師、それにアレクサンダー夫人等多くの者が健康を害し、伝道の働きにはなだ支障をきたしておりますから目下のところ期待した通りの事業拡大は出来ないうでしょう。しかしこれは主のなさる業であり、たとえわれわれが居なくても主ご自身の方法によつて宣教を進めていかれることでしょう。

アーヴィン博士は健康を回復していると聞いて喜んでおります。

完全によくなられて再び仕事に就かれる元氣を取戻されますように。
取急ぎ筆をとりました。この手紙が三月六日に横浜を出る船に間に合わなくなるといけないと思つたからです。

センター通二十三番地の皆様とあなた自身によろしく 敬具

T・C・ウィン

金 沢

六月十二日

ラウリー博士あて

この地方での伝道の事情が十分わかるくらいここに滞在していますから、そのことを当分あなた宛に書き送ろうと考えています。ここには契約の八ヶ月いたことになりました。ツルー夫人は今年の末には東京に戻らなくてはならないと考えておりますが、私達はできればここで始めた伝道を更に続けたいと願っています。三ヶ月ほど前になります、知事との間の契約について何人かに尋ねてみました。返事は、県の各地からの代表者で構成されている県会が済むまでは決められないとのことでした。県会は現在会期中ですが、学校のために費用が支出されるかどうかかわからないのです。もし議会でもって私の給料および学校運営費の支出が認められるならば、その時には県知事も私との契約を更新できることになります。はたして知事がそうするか、それが望ましいと考えているのかどうか、もちろん私には知る術もありません。もし県として外国人教師が欲し

いと思うなら私の提案した条件で私の方はそのまま雇っておく、これよりも良い方法はないと思うのです。つまり千四百円を私の給料として支払い、他の半分を教授する別の人間について私に一任するという案です。前任の教師達から聞いたところによれば県として誰れか他の人を雇うよりもこの方式のほうが安上がりです。他の理由からも遠慮せずにそのように提案しようと思つています。県としてはそれで損をするどころかかえって得をするのです。この計画をすすめるためには伝道局としてもう一人の教師を派遣するという返事をいただく他はないのです。アレクサンダー師は下関に行つておりました。彼がちょうど戻つてまいりました。彼がすぐあちらに赴任するかどうか私は聞いていません。しかし夫人の健康がはかばかしく回復していませんが、そのことは恐らく心配するほどの妨げにはなっていないでしょう。もしアレクサンダー師が下関に行くことになれば東京からここに来て一緒に働く者がいなくなります。ひとつの家族だけを別々の場所に派遣して宣教活動をさせようとするのは賢明な方法だとは思いません。少なくとも二家族は一緒に送らなくてはいけないし、そのほうがお互に励まし合うためにも無理のないやり方でしょう。そのためには、もし私がこのまま金沢に残れることになりアレクサンダー師が下関に行くことになれば、一組の夫婦を金沢に、もう一組は下関伝道の協力者としてどうしても必要になってくると思います。それらの任にあたる信仰深い人たちが見つかるようにとせつに祈るものであります。優れた才能をもった人たちなら余すところなくその能力が用いられるでしょう。できることならそうでない人は外国伝道の場を選んではいけません。しかしながら、つねにあなたがこの考えを実行なさってきたとしても、今、日本の金沢という所にいる何人の宣教師たちは、はたしてどうなのか。それ

でも原則を私は支持します。悪魔の群を追い払うのに、ただ福音の燈火のみを武器として用い、敵を追い払う使者たちが送られることを祈るものです。この町にみられる悪魔の仕業、ほんとうに人々の信じているのは作りものにすぎないのです。

しかし伝道に関しては、われわれが金沢に赴任してすぐに機会をとらえては宣教を開始しました。私達の住居を開放して、一軒は説教のため、バイブル・クラスのためには二軒とも使っています。最初の聖日から説教を聞こうと大勢の聴衆が集まって来ました。日曜日と週日に持たれているバイブル・クラスにもかなりの数が来ます。しかし教えの真理を学びたくて来ていた人たちが、われわれの助けを得ようとする点では、明らかに求道を止めてしまいました。あの人たちはもうわが家にも、礼拝にも来ていません。あの青年たちはもうじき福音を信じるであろうと望みをかけていましたので、私達が金沢に来たことへの大きな励みだったのです。神のなさり方は人間のようではなく、神のお考えはわれわれのとは異なります。私達が大いに期待をかけていた人たちがまだキリストを信じないで、かえって私達の思いの中になかった人々が私達の信じている神の国へ入れられています。二ヶ月前に私は七名の人々に洗礼を授けました。その中にはわれわれの助手をつとめる林さんの奥さんも含まれています。明日は聖餐式が行なわれますが二人が新たに群に加わるようになっていきます。神の名によって金沢の地になされた祝福の兆しがこのように早くみられたのをたいへん喜んでおります。洗礼を受けた者は皆以前は武士階級に属していた者たちで、一人の例外もなくきわめて立派な人達です。その人達が説教を聞きに、また祈禱会にきちんとやって来るのを見てたいへん嬉しく思っています。新たに加わった者のうち一人は七十七才、一人は五十六才、もう一人は三

十七才というように二十才ずつ年令が下がっています。二ヶ月前の七名の受洗者の中には婦人たちも入っていました。

ツルー夫人が小さな学校を開き、林さんと岡村さんがその手助けをしています。岡村さんは最近受洗したうちの一人です。もし県との契約を結ぶことが出来なければ、ツルー夫人の学校の青年たちに雇われる形をとって二、三年の間は留まれるだろうと思うのです。その時までにはこの地方に残れる何らかの手段が見つかるのか。あるいは私の前途に新たな働きの場が開かれるか、それを今知らなくてはならないというのはたいへん辛いのですが、もし道が閉ざされたなら、そうなきったのはたいへん辛いのですが、私を用いてくださる他の方面を見つける努力をしようと思えます。時間があればもっと詳しく仕事のことを書けるものを、もう横浜から出る次の船に間に合わなくなりそうです。子供が相変らず虚弱児で心配しています。妻とツルー夫人からも主にあつてくれぐれもよろしくとのことです。

敬具

トス・シー・ウィン

金 沢

一八八〇年九月九日

ラウリー博士あて

二、三日のうちに郵便物の収集がありますので一筆記したいと思えます。われわれが金沢に留まれるかどうかの問題はまだまったく

未解決の状態です。この前の手紙に書いた通り県としてはもう一年私を雇用できないと言っているのです、もし留まるとするなら何らかの許可が必要になります。私のために六ヶ月の許可を取ってもらうよう東京のトンブソン氏に手紙を出しました。その間に首尾よく学校を開くことが出来れば、それでもって長期の滞在許可が得られるだろうと思っています。金沢のクリスチャンたちが学校を始め、私はそこに雇われるという形をとらなくてはなりません。彼らは学校が出来たらばそれに異論はないと言っております。結果がどうかするか時を待つしかありません。伝道の仕事はきわめて興味深く、主が私達に道を開いてくださるならここで伝道を続けたいと思っております。

次の聖日には聖餐式を行いさらに四人に洗礼を授けることになっています。そうすると私達が金沢に来てからの受洗者の数は十三名になります。ほかにも聖餐式に加わるのを待っている者が二名おります。その人たちは生ける神に仕えようとする信仰の決意が十分みられる証しをしました。ただし問題なのはそのうちの一人の場合職業が巡査であって仕事の性質上、聖日の半日は勤務につかなくてはなりません。もう一人は県の役人ですが聖日に務めがあります。日常の業務は休みです。けれども日曜日や巡回や補助的な業務に当てなくてはならないことがよくあるのです。後者の場合はきわめて興味深くまた人物も善良な若者です。年齢は三十才、妻と子供が二人います。私はその若い巡査には今のところ洗礼を授ける約束はできません。彼はできれば職業を変えるのも厭わない様子です。もし今の勤めをやってしまったら政府は恐らく彼の面倒は見ないと言うでしょう。昔の武士階級だった者たちは商売について何の知識もなく、維新以前には生計を支えるための仕事は何もしなかつたのです。武士というのは生活を他に依存する階級だったので、政府としてはできる限り多くの働き口を用意してやったのです。クリスト教信仰を持つためにせつかくの仕事も辞めてしまおうといった、私達の本国にも見られない不屈の精神を必要とするのです。聖日を守るといふ聖書の規準をゆるめることは出来ないと思えますが、アメリカ人のクリスチャンとは多少違った扱いをしてあげたいと思うほどの人たちの立場には大いに同情を覚えるのです。

しかしこの手紙を書いた目的は、小さな教会（それは秋には中会によって組織されると思います）が礼拝をする建物がいよいよ必要になってきたのです。イエスキリストの名に対する反感がありまして説教のために家を借りるのが難しいのです。そこで教会堂に關してお尋ねしたい。そのための資金が集まれば小さな礼拝堂を建ててもよいとご許可くださいませんか。資金は通常会計の他に募金が出来ると思えます。次の手紙で返事をお待ちします。

こちらは全員元気です。長いことひ弱だった子供はさい先よく大きくなり始め、今では丈夫になったように思われます。楽しみに返事をお待ちしております。

金 沢

十月十三日

ラウリー博士あて

引続き神の祝福を受けているということ以外にはとりたててご報

告することはありません。前回の便りの後も、金沢に私達が留ることになるか、あるいは金沢を去らなくてはならなくなるかまだ結果はわかりません。この問題について私の知る限り未定ですが、今日までの経過を説明しましょう。私は東京の外務省に手紙を書き六ヶ月間はここに滞在できる旅券を得ました。その間に永住のための手筈を整えようと思っています。この家を貸してくれるように県に願ったところ、私が金沢に留まれる根拠が知りたいと言うのです。私は中央の政府発行の旅券を所持していますからそれを示してやりました。ところが県としては、法律上は滞在は出来ないが東京から永住に関する連絡があるまでは金沢に留まることを認めようと言ってくれました。小さな学校の英語教師として私を雇用してよいとの許可を得るようすでに請願書は当局に提出して東京に送ってもらうようにしてあります。その願いは市と県の両者が承認をし、現在は東京に届いております。この地に私が留まってもよいとの許可が与えられることだけはほぼ間違いありません。返事はおそらく今月末までに届くだろうと思います。しかし差し当つての住宅がありませんし貸家をさがそうにも見つかりませんので大変困っております。ところが県当局がもう一度援助を申し出てくれ、住居が用意できるまではこの家に住んでよいというのです。これこそわれらに恵みをたれたもう神の摂理によるものにほかならぬと思われまます。キリスト教の教師としてのわれわれが、キリスト教徒でない県当局の許可を得てここで生活をし、また彼らの好意で住宅を提供されているのです。言い忘れましたが県は家賃を取ろうとせずにかえつてわれわれの古くからの友情を続けなければならないと言うのです。

私の契約は今日四日にされました。その日知事は留守でしたので

副知事の手で今までの働きに対する記念としてこの地方特産のたいへん美しい青銅製花瓶を贈られました。私達のほうは県議会議堂の彼の部屋にとオイル・クロームを贈りました。このように上級官吏の間にはわれわれに對し何ら敵意はないように思われます。われわれに親切にしてください。彼らとても私がこの地に留まる目的は知っているので。それは金沢にやつて来た時も、また数日前にもその目的が何かということ私を率直に述べたからです。ここに居るならできるだけ早く住宅が必要になります。そこでわれわれが残るのを予想して何人かの大工にまかせ住宅の設計を見積らせることにしています。遺憾ながら二月に申し上げた千円を越すことになりません。当時から現在までにあらゆる物価が急激に上昇しています。昨年から見ると物の値段はほぼ二倍になったと皆が言っています。まさかそれほどではないと思いますが、住宅と土地の費用はアメリカのお金で一千ドルを越えることはないでしょう。費用を全部みてもその額には達しない筈です。できるだけ近い金額に見積つて九百アメリカドル、一千メキシコ・ドルくらいでしょう。この件に関して本部の返事をお待ちしますが、工事は居住許可を受取る前に取掛ります。九ヶ月前私が本部にお願いした額を越える分の支出は認められないとすれば私の名で借金も已むを得ない。安心して生活出来るような家をできるだけ安くあがるよう設計したのですが、三つの条件が必要になりそうです。つまり暖房と採光とマリアの発生しそうな湿地からの保護です。建てようとしている住宅にはこれらのことを取り入れたい。純然たる日本式家屋ではそれができないのです。よい住宅を建てようとずっと研究してきましたが、前に設計したものはかなり費用がかかりそうなので今度の案に合うよういくつか手直し

トマス・ウィン書簡

が必要になります。数日前、日本の紙幣はメキシコのそれに対して六〇パーセントという大幅な値下りをしました。原因はあらゆる物の騰貴のせいです。

クリスチャンたちが来月教会を設立したい旨の申請書を中会に出しました。中会は先週開かれたが、その報告はまだ何も受けていません。

有難いことに全員健康に恵まれているとご報告できます。子供は何ヶ月も病弱でしたが、ここ二、三ヶ月で急に大きくなり、すっかり健康になったように思われます。

『ニューヨーク・ウィークリー・トリビューン』の予約購読更新をしていただけますか。この前の郵便物では新聞がこなかったので、予約が切れたのではないかと思えます。その件についてあなたに何もお知らせしないけれど、私の方からもう購読しませんといわない以上毎年定期的に更新されるものかどうか調べてくださいますか。購読料支払いはバラ師宛にしてください。

主にある者同士のご挨拶をセンター通二十三番地の皆様へ

敬具

トス・シー・ウィン

金 沢

一八八一年五月二十三日

ラウリー博士あて

金沢におけるキリストの教会が今月一日（聖日）の午後設立されました。昨年の秋の中会でもって教会を組織してもよい、と許可されたのです。しかし委員会からは何ひとつ出されることなく、外国から何らかの援助を受ける時まで辛抱強く待ちました。

下関の青山さんには先月の中会で会い、こちらに来て当分の間、援助をしてくれるよう話してみました。東京横浜方面に行つて留守の間アレクサンダー師がやって来て私の代理をしてくれました。彼はその後も金沢に残り、われわれ三人が委員となつて、洗礼を受けているクリスチャンたちを組織し教会を成立させました。その日五人が受洗をし、小さな教会は成人の会員十九名、幼児洗礼者四名で発足しました。そのほかにも教会に受入れられるのを待っている者が八名おります。これらすべての者に対して教会への道が開かれるように、彼らが立派に信仰の証しをたて、主の名によって迎え入れられるようにと強く心に願っているのです。この小さな教会の会員たちが熱心に福音を宣べ伝えようとしている様子は称賛に価するほどである、と嬉しいご報告をいたしましょう。われわれにとって大きな喜びがどこからくるかといえば、それは会員たちが互に愛し合い尊敬し合っているのを見るからにはほかなりません。献金についてはその取扱いが日本人にはきわめてデリケートな問題として配慮されてきたし、今もしなければなりません。日本人の習慣として、お金は支払うにしても受取るにしても、どんな地位の人にも差し障り

があるのです。その授受は使用人の手でなされるのです。この習慣によればお金を扱ったり口にしたりするのが嫌われるだけでなくその品位を下げるものと考えられるのです。もちろん昔ほどこの考えは強くはありませんが依然として残っています。それでも、献金はクリスチャンがなすべきこととして聖書が教えているところなのだ、と教会の人々に知らせる決心をいたしました。そこで会員を招集して皆にこの問題を訴えました。私の考えでは全員が毎月の収入の十分の一を教会会計に収めることに同意したと思います。この中の約半分に相当する額は、彼らの中で牧師としての働きをしている青年に当てる約束をしました。私の訴えに対しこのように即座に反応が得られ心から喜んでおります。この教会の一人の青年は秋から東京の神学校に行くつもりです。才能に恵まれ特に聖別された青年がいます。もう一人も別の機会に、前の青年のようにするのが自分に課せられた務めと考えているようです。彼は今執事の働きをしています。キリスト教の信仰が広がり、その影響がこの町のいろいろなところで感じられます。洗礼を希望するものその他にも大勢の者が命の道を尋ね求めています。教会の設立式に仏教の高僧が出席していました。それまで彼がキリスト教のことを知らなかったとすれば青山牧師の説教から単純で力強い真理を知った筈です。彼は説教をたいへん熱心に聞いておりましたから。この地方最大の官立学校の職員が同じく出席していました。町長は出席できなくて残念である、とたいへん長文の手紙をよこしました。日刊新聞にはキリスト教を嘲弄する記事が時々出ます。しかしたいいていの場合、われわれとその働きが好意をもって語られています。周辺の町や村で伝道できるよう何か始めたいと強く願っています。近いうちに始められるよう私のできるのところからやっています。昨日の聖日には十五マイルほど

先の町に行く約束でしたが、ここ十日ばかり軽い病気をしていたものですから已むを得ずそれを取消しました。近いうちに約束を果したいと思っています。そこへ行くには往復とも徒歩で山道を越えて行かなくてはなりません。

伝道局としては、誰れか金沢へやって来て私達と一緒に十字架の旗じるしを立てようという夫妻を見つけることが出来ませんか。本部としてできる限り努力して欲しいと切に祈るものです。今、日本中いたるところで働き人が必要とされています。きっと派遣してください。さもなければ、千載一遇の好機を逸してしまうことになりましょう。

トス・シー・ウイン

敬具

神戸

一八八一年七月二十日

ラウリー博士あて

このような時期に私達がこのような場所にいるのを知って驚かれました。三月に横浜に行く途中神戸に寄った時に、おそらくあと二年は来ることがあるまいと思ったのですが、少なくともその間は仕事を離れないつもりでした。しかしその予定はまったく果たせませんでした。六月四日の日子供がはげしく引付けを起しました。六月八日にもう一度同じような発作に襲われました。痙攣は一時間半くらいの間隔をおいて一日中続きました。次の晩子供はぐったり

と死んだようになって、この子の命はもうだめかと思いました。赤ん坊が最初の引付けを起こした時に、アメリカ聖書協会のL・H・ギュリック医師がちょうどわが家に滞在していましたので医療の手当はもとより大いに私達を慰めてくださいました。赤ん坊が二度目の発作に襲われる前日に彼は帰ったのですが、子供の病状がよくないとわかって博士のあとを追って使いを出したところ親切にもわが家に引き返してくださいました。そのうえ子供にこれ以上は出来ないほど手を尽くしてください、横浜の仕事に戻らなくてはならなくなるまで一緒に居てくださいだったので。しかし赤ん坊は一向によくありませんでした。たび重なる痙攣のためにひどい精神障害をおこし、私達は医者診察が受けられる所へ来なくてはならなかったのです。そこでアメリカン・ボードミッシヨンのテラー医師の診断を受けようと大阪にやって来ました。大阪にいる宣教師たち皆に励まされ、またあらゆる援助を受けました。テラー医師とシモン医師の診察でも、病気がどのようなものか何ら明確な結論を出すに至りませんでした。ただそれがかなり重い危険な病気であるということだけでした。その頃赤ん坊がずっと精神に異常をきたしていたので、最初はそれがあとに残るだろうと思われました。その後、痙攣のために耳が聞こえなくなることも考えられ、私達の心は悲しみで締めつけられるほどでした。三週間が経過して(その間テラー医師の治療を受けていたのですが)二人の医者の方の判断も外れそうなので喜んでいきます。赤ん坊はまだ危険な状態を脱していませんがずいぶん良くなっていると思います。今よりもっと良くならない限り妻が赤ん坊を連れて金沢に帰ることは慎重を期さなくなりません。思いきって戻ってみるにしても十月より早くはならないでしょう。容態が悪くならないければ私は明日戻るつもりでいます。

今私がお尋ねしたいのは、アメリカの長老派教会外国伝道局としては日本にもっと多くの人とそれに合わせてお金を送ることが出来ないのですか。日本のようにその地域のほとんどが開かれている国で、そのようなわずかなお金でもって神の御子の福音に至る門を通り過ぎようというのは教会の恥でしょう。さらにわれわれが病気になるのも助けが得られぬような場所で、一人苦しみに合いつつ伝道の仕事に携さわっている宣教師からさまざまな不安や障害を除かれないのは本部としてよろしくないと思うのです。

金沢とその周辺はわれわれのミッシヨンのみで全面的に伝道に関わっている地域です。ミッシヨンの内部ではひとつの計画が動き出して、それによると私達の関心である金沢およびその周辺の伝道を止してどこかよそに行くように、というのです。どうしてそのようなことになるのでしょうか。われわれだけで金沢に住むのは大変であろうからというミッシヨンの判断が大いにあるのでしょうか。本国の伝道局としては医学教育を十分受けた宣教師を金沢に派遣しようとの努力もしないし、また出来ない相談なのでしょうか。アメリカンボードにはよい働きをしている宣教師がいます。そして誰れもそれに異議を唱える者はないしましたそのようなことは出来ないのです。私自身は医者でないから、宣教師としてわれわれと共に金沢で働くのにはどのようにするのが一番よいのか、確かめようと努めたことがあります。しかし宣教師たちが今現によい働きをしている、またこれまでしてきたのを知っているので(われわれの教派ではヘボン博士が特に有名ですが)、私の聞いているところではヘボン博士の甥が日本に来たいと言っているのに、なぜただちに派遣しないのか理解に苦しむところです。ヘボン博士のご子息が来たがっているというのは私の思い違いでしたら、来年の冬にならないうちに

伝道局として誰れか医療宣教師をさがして金沢に派遣するよう至急考慮願えませんか。『インテリア』紙に金沢では女医を求めている、と書かれています。その要請は誰れがしたものか知りませんが、女医というのはおそらく最善の策ではないと思うのです。医者は欲しいが、絶対に男性を送ってもらいたいです。もう一度くり返すので強談は承知ですがただちに、しかも本気になってお考えください。

もうひとつ申し上げたいことは金沢の伝道を助けるよう若い婦人を派遣してほしいということです。もし送られるならば、それは伝道の経験のある婦人たちでなければなりません。さもないと、女学校が作れそうなのに何もできないでしょう。それに相応しい人物が派遣されるならその人たちの手で女学校が建てられるでしょう。シカゴ出身の若い婦人が二人金沢での伝道を申出たと聞きました。その人たちが来れば仕事はきつと成功するだろうと思います。しかし繰り返し申し上げますが、そのような仕事を始めるには経験ある人物を指名するのがどうしても必要です。他の地域と同様に日本伝道の必要を満たすよう、もっと多くの献身者が出るように願うものです。グリーン師の健康が幾分回復していると聞いて喜んでおります。願わくば主が彼を大いに必要とし、彼に適する仕事に戻るのを許されますように。

気候は今たいへんな暑さで、ほとんどの者が山に避暑に行っています。

エリンウッド博士、アーヴィン博士にもよろしく伝えてください。

取急ぎ 敬具

トス・シー・ウイン

ラウリー博士あて

病気の子供を連れて神戸に滞在していた時にお便りしました。子供はだいぶ快方に向かっています。しかしまだ全快ではありません。あの子の心を覆っておりましたかげりは消え、もう一度生れながらの目の輝きをとりもどしたように思われます。まだ十分看護が必要です。妻は病人の世話に全精力を注いでいます。そのような中にも彼女は月曜日の午後には婦人たちのために手芸と裁縫教室を続けています。この企てはたいへん成功しております。その折には必ずキリスト教の話をする時間を設けていますから、きつと出席する人たちの霊的成長の一助になっていると思います。金沢にある小さな教会の会員たちはクリスチャンとしての徳において、聖書の中に示されている主を知る知識の点でも成長しています。

神戸から私は七月二十六日に戻りました。妻のほうは医者がもう帰宅してもよろしいと言われるまで五週間の長きにわたってそのまま逗留しなければなりません。

八月七日に教会では主の晩餐を私が執り行い、新たに四人が会員として加わりました。東京から手紙がきて、信仰告白に基づき洗礼を施します、と書いてあります。会員数はこれで二十三名、それに幼児洗礼を受けた子供が七名になりました。聖餐式のあった翌日、東京の神学校の学生（彼は休暇中教会の応援をしてくれた）と金沢教会の会員二人を伴って主だった県北の町を巡って伝道しようとして旅行に出かけました。二人の教会員のうち、一人は神学校の学生

金 沢

一八八一年九月十四日

で将来は有能な牧師になりそうです。もう一人は今五十六才で、アメリカ聖書協会に所属しています。この協会は聖書の販売をしているのです。私達はまだ救いの福音を聞いたことのない人々に伝道しようという教会の祈りをうけて出発しました。われわれの努力に対してその成果は期待以上に大きなものがありました。また、どこへ行っても普通の建物では伝道会ができるだけの広さに限りがある点が問題でした。つまり最大の難事は集会用の建物を確保出来ないことでした。しかしこの町でもとにかく一度も集会が持てなかった例はないのです。実のところ集会が一回だけしか開けなかった所が一個所だけありました。他の町にはそれぞれ二、三日ずつ滞在し、午後と夜の二回集会を持ちました。聴集は三十人から三百五十人に及びました。三十人しか集まらなかった小さな町では、最初説教はできないと思っていたのに、招きを受けて語ることが出来たのです。ちようど二週間金沢を留守にしました。その間に少なく見積っても三千人の人に福音の喜びを語ったことになりました。われわれの行く先々の町で聖書の部分訳が出回っている例が数件ありました。しかし、いずれの場合も伝道者の口から説教を聞いたことは一度もなかったのです。訪れた中でも二つの町に私は引かれるものを覚えめました。人口は六万と八万です。他の町はもっと人口が少ないのですが、町自体はかなりの大きいです。時間がなかったのでいくつかの町は寄らずに素通りしてきました。そのあたりは人口の多い地域です。人々は罪と偶像崇拜に気付かず暮らしております。

いま述べたような伝道旅行を南の方面にも行いました。時間が限られていたので、いくつかの町を訪ねただけで引返さなくてはなりませんでした。町の聴衆はきわめて熱心に耳を傾けてくれ、神は御言葉を空しく終わらせない、と信ぜずにはおられませんでした。留

守をしている間に、己の罪に無知な人々が罪の支配の下にあることを示すような興味深い出来事にたくさん出合いました。日本の宗教をものともせず、福音を待ち望んでいる人々が多くいます。ある町では、二軒しか家が借りられませんでした。劇場がひとつ、それにもうひとつは大きな寺の境内に続いている建物だけでした。われわれが選んだのは後の方で、そこで集会を二度開きました。夜の集会の時刻に、そこからほど遠くない、道路を二、三本隔てた所の櫓の上で盆踊りが行なわれておりました。しかし催物の太鼓を打つ音やその他の音楽が鳴り続ける中だったのに、私達が語る声は十分理解されました。別の町では町長が自宅を説教に使うようにと申出してくれました。彼の息子たち二人とも金沢の私達の学校に学んでおりましたが、今はバラ師の学校に行っております。

〔一語判読不可〕と神戸を鉄道で結ぶ工事を計画している会社がありました。三年で工事は完成します。それができると金沢へはたいへん来やすくなります。鉄道のおかげでこの地方が大いに開け、外国の影響を受けるようになるでしょう。

金沢を正式に伝道局の本拠とする方針を進めるように手紙を書いて、今東京のミッションに出しました。大阪の布教団も同様に本拠にするよう次の総会への動議として提出しました。この両者とも必ずや日本人に祝福をもたらし、さらに日本における私達の教会の発展につながるものと確信しております。

金沢に住みつくためには、私が今携わっているように何らかの形で学校で教授する仕事をしなくてはなりません。どちらにしろ教えなくてはならないのだから、よい学校を開校するのが賢明かと考えます。金沢にそのような学校が作れるなら、大いに喜ばしいことです。

〔数行判読不可〕

ここでは婦人たちが女学校で教えたり日本の婦人たちの中で働いたりする以外の方法で、宣教を支えることができるかどうかわかりませんが、もし若い婦人が金沢に来ることになればとにかく最初は現に開かれている小さな学校で教えなくてはならないでしょう。学校の人手が十分な場合には、別の活動基地に配置ということになるでしょう。

ここは開港地でないし、宣教師も特別許可を得ないと居住出来ないからといって金沢に人を送るのは無駄だと思つていらつしやるかも知れません。京都におけるアメリカン・ボードの伝道は特別許可を得てそこに住んでいる人たちの手ですべて行われているのです。同じようにして私もここに住んでいるので、金沢にやつて来て住みたいと思つている人たちに許可が与えられるかどうか、これまでに何度も日本人に尋ねてみました。すると、許可は欲しいだけ得られるだろう、との答えです。政府の要求通りにして、それでもつて開港地以外に住むことの許可が得られなかつた例を私は知りません。長期の、最底五年はいられる許可がきつと得られるものと思つています。伝道局としてはこの問題を十分お考えなさると思ひますが、常に教会の頭なるキリストがわれらを導き、イエスキリストの御国へ至る働きに御名の御栄があらわれられるようにと願うものがあります。

妻からもセンター通二十三番地の皆様にごひよろしくと申しております。

敬具

トス・シー・ウイン

金 沢

一八八二年八月三十日

ラウリー博士あて

前回の便りを差上げてからずいぶんしばらくぶりですので、その日付がいつだったか思い出せません。今年の夏は例年になくかなり涼しかったのですが、ようやくそれが終わろうとしています。

私的なわが家の事柄ですが、喜びと悲しみ両方のご報告をいたします。六月十四日、次男誕生。健康な赤ん坊なので私達の心と家庭に喜びをもたらしました。妻のお産のため、大阪から来ていたテーラー医師は来月（先月の誤りであろう）十七日に金沢を立ちました。母子とも元気にしています。そのわずか六日後の二十三日に三才になったばかりの長男が熱病にかかりました。たぶんご記憶でしょう、あの子は昨年から脳にひどい障害を起こしています。自分たちの力ではどうしてよいかわからないし、医者も二百マイル先の大阪より近いところにはいないので、主によりたのむ他はないのです。妻はもちろん床を離れるわけにいきませんので、彼女の世話が疎かにならぬよう気を付けながら同時に病気の子どもの方も私がみなければなりませんでした。妻は体がきわめて丈夫ですから産後としては元気にしております。ですから、病気の子どもを一定時間妻のベッドの横に寝かせ、日本人の助けを借りながらあの子の面倒をみてくれるので私は休息がとれるのです。可愛い子供達の病気を直し、痛みを軽くしてやりたいと思つて過ごした不安と悲しみの日々については語るを要しないでしょう。日本の友人たちを別にすれば他には人の助けも同情もないまま、不安と悲しみが増すのみです。日本人たちはま

トマス・ウィン書簡

ごころと真実を込めて悲しみをあらわし、自分たちに出来ることならどんな小さなことでも手伝わせてほしいと言ってくれたのです。熱が出て九日目にかわいいウィラードは私達から取り去られ、あの子をお授けくださった神のもとへと帰っていききました。彼は死んで安らかにイエスのもとに眠りにつきました。その翌日町の向い側にある小高い山の美しい場所に埋葬しました。主が再び来られ、死者が蘇えるその日まで、ああして横たわっているのがあの子には相応しいことと思われまます。

深い悲しみの中に、慰めもないままおかれたわけではありません。主のお支えと恵みを思い神に感謝するものです。人の助けを受けたことといえば、私達の親友ポーター兄がウィラードの病気を耳にするやただちにやって来てくれたのです。しかし兄弟が着いたのは葬式が済んだ一週間後のことでした。ポーター師は昨日大阪に帰りました。

妻はたいへん辛い状態にありながらみごとにそれに耐えています。赤ん坊も順調に大きくなっていますので今年も同じように仕事が続けられるならば、来年は誰れか専任の日本人牧師をおきたいと思えます。

私の金沢滞在許可旅券は一八八三年十月まで延期されました。問題はその後何をすべきかということです。金沢とその周辺での伝道をこの段階のままにして去らなければならぬとしたら、それは言葉にいい表せないほど残念なことです。この問題にどのように決着をつけるか、金沢を諦め大阪に移るようにと強い働きかけがあります。もちろんその後の仕事からいっさい手をひいてしまうつもりはありません。ここにおいてもその管理は出来ませんがそれはみな地方教会の場合であって、どうしても有利には作用しないでしょう。私自身の

立場というよりも、これまでの実績や将来の見通しが有利に働くようにミッション全体として大いに話し合ってみたいと思います。しかしその種の伝道が日本では一番必要とされているという点では皆が一致しています。もう一点は、この地域がわれわれの前に開けてきたのはまさに神の導くところであること、またわれわれの手で掌握できそうである、という点です。開港地でない他の町と同じようにやっていけるかどうかわかりません。これらのことを考えると、金沢へ宣教医派遣の要請の件について伝道局の注意をもう一度促してもよいのではないかと思うのです。

金沢を含めた大阪ミッションに伝道局から任命された二人の婦人が金沢に来たがっています。われわれとしても希望通りにさせてやりたいと思います。しかし問題なのは、なんら医療を受けられない所に住むことの適否であって、これは深刻な事柄であり、そういう状況の中で、自分たちの力でもってやって行かなければならなくなるだろうと私には思えるのです。もう長いこと明らかであったように、もし今まで考えてきたような形で金沢での伝道が続けるならば、医者が必要です。任地駐在に関して金沢に居住を続けるのか、それとも止めにするのか、その選択を伝道局としてどう処置するのか、私は強い関心と同時に願いをもって待っているのです。

アレクサンダー夫妻や金沢の他の教派の宣教師たちとも行き来して語り合うのを楽しみにしております。大阪で開始された伝道はきわめて有望と聞いております。

この地の主の僕たちの福音伝道に豊かな実りが与えられますように。皆元気にしております。

敬具

トマス・シー・ウィン

大阪

一八八三年三月二十九日

ラウリー博士あて

来月の四月三日から長崎で開かれる中会にアレクサンダー師と一緒に出発する前に、まずあなたに一筆お便りします。途中下関に立寄って、そこで伝道の様子をみるつもりです。おそらくそこで二人とも説教をすることになるかも知れません。きつとそうなるでしょう。

私共にふりかかった試練と災難に同情をお寄せくださった手紙を二ヶ月前、ちょうど医者のお勧めで東京へ転地に行っていた時に受取りました。主の大きな憐れみによって私は今もう一度すっかり元気になっております。ただし聴力と視力の両方が少しづつ衰えているのです。私にはチフスを併発してもおかしくないいろいろなことがあつたのですがはるかに軽いチフスに罹つたのに亡くなった人々のことを耳にすると、私に示された主の憐れみに対し、わが魂よ、主をほめたたえよ、と神の恵みに感謝せずにはおれません。

金沢には五月の第一週までには戻るつもりです。そしてできることなら数年間金沢で伝道を続けます。政府からあと五年間そこに住むのを認める許可が得られないことはあまりなさそうです。他の人たちはそこに住むよう認められるでしょう。あなたを通して伝道局あてに手紙を書いたのは、金沢ステーションにおいてずっと以前に可決された計画がもうあなたのところへ届いている筈だと思つたので、本部からは何の知らせもないので、もしかしたらあなたに届いていないのではないかと思つたからです。願ひ出た事柄の真意をただちにわかりただけでしょう。最も早い時点で承認が得られるよう

に委員会にご提出を願います。

一八八二年六月五日 金沢にて

伝道局は金沢での求めに應じて人を派遣する旨を伝えた。赴任と同時にそのための住宅を用意しなくてはならない。

それゆえ、決議事項

大阪の常置委員会としては伝道局に対し金沢に新しい宣教師用住宅建築許可を請願する。それは開港地以外の都市に居住を認める政府のパスポートが得られればただちに千二百メキシコ・ドルを越えない額でもって住宅を建ててよいということである。

住宅を借りることも考えられるが、その場合はもちろん伝道局から特に許可を得る必要はない。要求の金額は私の住宅に要したのよりにかなり多いが、金沢に行く他の人たちもおそらく同じような家の造り、つまり日本家屋に住むようになるかと考えられます。

取急ぎ、しかし心をこめて

トス・シーウィン

金沢

一八八四年一月七日

神学博士J・C・ラウリーあて

私達の同労者が着任した後、お便りをしたかどうかはつきりしません。ポーター師の妹と一緒にカミングズ医師が金沢に到着してもう二ヶ月になります。このように親しい友であり協力者を派遣して

くださった本国の友人と伝道局にたいへん感謝しています。十一月十三日に学校を開校しました。認下がおりたのは六月のことだったかと思えます。予想以上の激励を受けて始まりました。生徒として登録した者の数は約三十名で、一、二年のうちにわれわれには教えきれないくらいに増えるだろうと思います。学校だけで独立採算させるか、あるいはそれに近い形にしようというのが私たちの願いであり目標です。しかし事の性質上、最初はあまり安定したものは望めないでしょう。お金を払っただけのことはある、と市民に対して言えるような学校にしないでほしいです。必要な日本人の助手の給料と学校の建物の家賃として何らかの資金がなくてはなりません。予算にはこの事業に対して何らかの見積りをしていません。要望書にはポーター師と私とで署名をしたうえで東京に送り、そこから伝道局に転送してもらうよう求めてあります。それは十一月のことでしたが、この問題に関してその後どういうことになっているか何もしらせを聞いておりません。もうニューヨークには届いていて、伝道局としては好意的にお聞き入れてくださったものと思っております。カミングズ医師はまさにそのために来たといえるほど仕事に相應しい人物のようです。彼女はすでに診療の経験が豊富にあります。医師として用いられる機会がこの町においてもたくさんあると思います。もちろん戦わなくてはならぬ偏見に出合うことでしょう。しかしそれはどこへ行ってもあることです。

教会の営みはいつもと変わりないのですが、教会を追放された者が二人でました。その二人とも若い男性ですから罪を認め救い主とその福音に対して怠たっていた態度を悔改める望みは未だ残っています。彼らとてそれだけの知識はあり、決して忘れる筈はないでしょう。次の聖日には信仰を告白して聖餐に与かりたいと希望している者が

おります。熱心に学びをする者がかなり大勢おり、福音の真理に聞こうときちんと教会にやってきました。

昨年金沢を訪れていたミス・ヘッサーが女子のための寄宿学校を始めたいと思つて金沢に戻つて来ました。この地に五ヶ月間滞在し、これらの女性の将来を思い、またこれまで手付かずであつて今後私達のミッション以外には誰れもやりそうにない大きな地域があるのを見てとつて、彼女の心は人々への愛に燃えぜひやつてきて人々の地位を高めるために、また救いのためにできるだけのことをしたいと願つております。そのことで彼女が金沢に来て住むという問題が起り、その願いは大阪のステーションの常置委員会に提出され、最終的な決定は彼女に任せられました。女史としてはこの企ては主が自分に望まれることであると信じて金沢に来る決心をしました。

アレクサンダー師は少なくとも当分は大阪に女学校を作ろうとする構想を放棄したと思います。しかしノース・ウェスト婦人局が用意した千百七〇メキシコドルは大阪のミス・ガーヴィンの住宅購入に当てました。N・W・伝道局献金の二千ドルの残りを金沢の事業に転用するよう許可を求めたいと思うのですが。しかしその同意が得られたら、さらに補助を求め大阪のために用意されたそのお金をN・W・局の同意のうえ他の事業に用いるように決議しました。そこで話は、女学校の建物を建て、その運営はマウント・ホーリーヨーク式にしようと思いますが、その資金をお願いした要望書のこと及びます。学校は慈善学校ではなく、生徒が寮費と授業料を支払うようにいたします。しかし奨学金として年間百ドルをお願いしたい。このお金は能力があつて将来性のある娘たちを援助して、できるだけ多くの生徒の学費に用いるためです。けれども生徒たちはお金をただ施しとして受けるものではありません。学校は使用人を雇わ

なくてはならぬが、その代わりに生徒たちが家の中の仕事をして働き、その報酬として援助の形でもって受けとるのです。この問題について考える人は、クリスチャンがなすべき教育事業として本国にあつて多少なりとも一緒になつてヘッセル女史を援助しようと思うでしょう。私としては以下に述べる理由でもって賛成していません。

(一)この地方にはそのような事業の分野が大きく開かれているが、われわれの教派だけが将来やつていけること。いやしくも宣教の業として女子のための学校を営むことに何らかの価値ありとするならば、この種の学校こそ、よその土地と同じく金沢でも成功しそうであること。

(二)この事業のために私たちがお願いしたお金はごく穏当な金額であること。私を知る限りでは、この種の企てをするのに日本からこのように少ない金額を伝道局に請求したことはなかつた筈です。計画中のこの学校に私は賛成いたします。ヘッサー女史は、優秀であるのに経済的には困っている生徒のことを考えているのです。金沢で巧みな学校経営関係者の計画やその実施を完全には排除出来ないと思います。私が奨学金として請求した百ドルは、金沢から大阪と東京の双方に転送した予算見積りに入れています。年次総会で報告する時間がなかつたので、はたしてそれが予算として認められそうなのかどうかわかりません。

金沢に女学校を開くという問題は多くの祈りを要する事柄であるし、まさにその決断こそ主の御栄をあらわすものと心から信じています。

今年の冬ポーター師と私とで説教補助者となる若者を教育する目的で養成講座を開きました。彼は毎日授業に出席し、神学と教会史

の講義を聞きます。この地方の伝道の仕事が始まる重要かつ効果的になるよう願っています。もしここで伝道者になる者が見つければ、ここでその人たちを養成しなければなりません。

妻と共に心から新年のご挨拶を送ります。

トス・シー・ウィン

敬具

金沢

一八八四年七月三日

神学博士ラウリーあて

カミング医師と大阪のテーラー医師の二人の勧めで中国に行つていたのですが、そこから戻つてもう一ヶ月近くたちます。私としては転地の必要を感じなかつたのですが、たいへん元氣になつて帰つて来たことから、行つてよかつたと思います。まったくといってよいくらい完全な体になつていてと考へたい気がします。暑い夏の間は少しは気を付けようと思いますが、夏が過ぎればもう用心する必要もないでしょう。

うれしいことに、こうして家にいて再び仕事に復帰できました。今はたいへん力を得て、希望に溢れています。会衆は大勢だし、熱心に耳を傾けてくれます。教えの真理に関心をいだき、罪人に対する福音の貴さを心を開いて理解しようとする大勢の人々がおります。

富山の町は金沢の北にあり、クリスチャンの数は少ないのですが、そこでも希望の兆が見られます。生命に至る道について尋ねる者も

トマス・ウィン書簡

あります。一年前に私が洗礼を授けた一人の老人、この方が目下牧師の住宅と講義所を兼ねた建物を建てています。彼はたいへん熱心で何物をも恐れず、どんな悪口を言われてもただ黙々と続けているのです。

自分が知った新たな喜びについて友人知人に語ってきかれます。その一家の感化が町に益する力となり、希望と喜びがその人たちだけのものではなく、日がすみやかに来たらんよう願っています。他にもまことの神を受入れたいと心から望んでいる夫妻がおりますがキリスト者として信仰を告白した信徒の中に位置をしめるほどの強い信仰はないのです。なぜならクリスチャンに対しては、もろもろの強い迫が行なわれるからです。

われわれ外国人の小さなグループの中にたいへん重要な出来ごとが起こりました。ポーター師とカミングズ医師が婚約をしたのです。この地での伝道のためには、起りうる最善のことであり、皆二人の幸せを共に喜んでおります。二人は数ヶ月のうちに結婚するでしょう。カミングズ医師は医療の仕事でもってできる限り診療に当たってきました。これからその働きが増すことはあっても減少することはないでしょう。

私達は皆元気で、私達が用いられるように機会が与えられたことを喜んでいきます。妻が今階下で婦人のための集会を開いているところです。十人から二十人の出席者がおります。

妻と共にあなたのお幸せと、主のために一層のお働きを続けられんことを願って

トマス・シー・ウィン

敬具

金沢

一八八四年七月三十一日

神学博士ジョン・シー・ラウリーあて

六月二十四日付、大阪ミッション宛のご親切なあなたの手紙はフイシャー氏から転送されて落手しました。私の健康をお気遣いください感謝いたしております。私の判断するところでは、中国から帰ってからは完全に健康を取り戻したとご報告ができてひじょうに嬉しく思います。中国旅行などしなくてもよい、と私は考えたのですがカミングズ医師とテラー医師の二人とも行くようにとのお勧めでしたので、どちらにしようか考える余地はなさそうでした。アメリカに帰国しなくてもよくなったのでたいへん喜んでいきます。休暇をとるまでに十年は続けて働きたいと心から願っています。健康のいかにかわからず十年勤めた後には伝道局に帰国許可を願います。健康のうと思っております。医者は皆、十年といわず八年で帰国しなさいと言ってくれます。

予算見積りに関し八四年八月から八五年八月にかけての伝道局の処置を伝える内容の中で、それは当然と考えられるが、しかし算入はしない、とあなたは言うておられます。「金沢の住宅二千五百ドル、それに金沢の学校の建物千二百ドル」、伝道局が金沢のためにそのような請求したのは以前にはないことだったように思います。私達が金沢に住んでもよいとの旅券が届く前に、ステーションとして金沢の住宅を二軒分、二千二百ドル請求しました。その金額のうち伝道局はポーター師の住宅分として一千ドルを認めました。その後ヘッサー女史が金沢に赴任して、女史の住宅と女学校分として一千

百ドルを請求しました。この金額はもうすでに請求してあるものに追加してもらいたい、というのではありません。というのは当時の事情ではお金をその時点では使わないほうが賢明であろうというわけです。ポーター師の住宅用として提出した額を越えてはお金を住宅に使えなかったでしょうから。さらにそのうえ百二十五ドルは修理というよりも、私の住宅増築用に、四百七十五ドルは校舎用に、三百六十ドルはその年度の学校経営費に。そうすると合計九百六十ドルになります。しかし学校の運営費を請求した後、経営費としてはミツシヨンのお金は使えない、できるだけ早く学校を自立させなくては、と決心しました。四百七十五ドルの補助金を待つ間は我々（ポーター師と私）が家賃や教師の給与など、ただし生徒が授業料として納める分は別ですが、それ以外の費用はすべて二人が支払っています。本部へお願した援助金に關してもう一点明らかにしておく必要があります。ミス・ヘッサーの住宅と学校のために一千ドルを請求しましたが、その返事をまだ聞いておりませんので、大阪のミス・ヘッサーとガーヴィンの住宅および学校分として認められた二千ドルから残りの分を使わせてもらいたいと本部に願ひ出たのです。ミス・ヘッサーが金沢に移ったので、ミス・ガーヴィンの住宅購入と整備がすんだ残りのお金はヘッサーが使う権利があるように思うのです。ミス・ガーヴィンの住宅にはノース・ウェスト婦人局が募金した二千ドルのうち半分少々だけ使いましたから、その残金はミス・ヘッサーの金沢での住宅と校舎に当ててもよろしかろうと思います。その場合には、彼女のためにすでに請求してある一千ドルはもちろん不要になります。大阪でのミス・ヘッサーとガーヴィンの住宅および学校のために四千ドルが認められていました。そのうち一千ドルと少々だけが使われ、われわれとしては大阪でのミス・

ヘッサーの事業用にノース・ウェスト伝道局が与えた二千ドルの残金を本部はすぐ認めるものと思っておりました。彼女が大阪に留まっていたら当然行なっていたと思われる事業をこの金沢において行なおうとしているのです。したがって同一人物がそのお金を使用して、その目的のために与えられたお金を同じ事業をするために、ただ場所が変わっただけのことなのです。

今までのことを要約すると、現在実際に請求している金額は、校舎用として四百七十五ドル、百二十五ドルはウィン住宅増築に、一千ドルは住宅兼女学校用としてです。本部として、もしもノース・ウェスト婦人伝道局から贈られたお金の使用を認めてくださるなら、それでどうにかやってみましょう。状況に変化が生じるほどの金額増が本部に出来なければの話ですが。ノース・ウェスト婦人伝道局が出したか、あるいは少なくともこの事業のために本部会計に納めた二千ドルの残りが九百四十ドルはあると思います。一千ドルあればミス・ヘッサーの住宅は建ちますし、快適に住めるよう修理する費用と校舎用に当てられます。

先月、ポーター師の住宅用としてさらに百五十ドル追加請求が決議されたの言い添えるのを忘れました。請求した金額以上に不足するのですが、彼はあらゆるところで我慢しているものと思われまます。本部として私達のお願した援助をすぐに送ってくださるなら、今私達のしようとしている事業にどんなにか役立つことでしょうか。必要な資金がないため私達が願っている事業を進められないで困っております。

本部に請求しているお金はもうすでに述べた通りですが、よくおわかりいただけるように、以下のように書いてみました。

校舎用として

四七五ドル

ウィン住宅増築用として 一二五ドル

ミス・ヘッサー住宅兼校舎用として 一、一〇〇ドル

ポーター住宅建築増加分として 一五〇ドル

合 計 一、八五〇ドル

このうち九四〇ドルはすでに助成済み、残りは昨日の日付で締めた年度のミッション会計から未使用分、それは本来大阪のものが代りに金沢で使用するように本部としては認められませんか。この点が、去る四月に大阪のステーションから本部へ送られて願出事項なのです。

この町とその周辺にはわれわれの前に大きく開けた重要な領域があるように思われます。もし私達がこの地にとどまり得るなら、御名に相應しい学校を作り、きつと留まることができたらと思えます。福音の働き人になる青年を育成し、人々の教化と救いのため最大限のことを為せるでしょう。この青年で一定の場所の責任がもてる見込みの青年が数名おります。二人は、これまでまだ伝道がなされたことのない近隣の町に夏期伝道に行きました。夏の成果が今後の伝道の基を築くことになるようにと願っています。富山での伝道はまだ思っているほどにはさして前進が見られません。しかし今ちように異動について相談がまとまりましたので、これによって富山伝道の助けとなるのみならず金沢の働きもまたさらに前進したものと思っています。

あなたのお手紙の中で聖霊の存在を信じ神の導きの必要性を述べておられる点まことにその通りです。私は来るべき時には今までより一層大きく、一層完全な神の恵みが与えられたと実感出来るものと信じています。

真実をこめて

トマス・シー・ウィン

金 沢

一八八五年六月十四日

神学博士 J・C・ラウリーあて

今は聖日の晩ですので、主の日に手紙を書くのは信仰の点から見た実際問題としてしたくないのですが、次の郵便は明朝出るようになっていたのでそれに間に合うように今晚は短い手紙を書きたいと思えます。

金沢の小さな教会に牧師が与えられたのをお知りになったら喜んでくださることでしょう。四月最後の週に赴任して、五月第二土曜日には中会が指名した委員によって就任式が行われました。翌日(聖日)には、この教会の二、三倍もの人数を収容出来る市の公会堂を使って集会を二度開きました。大勢の聴衆が熱心に聞きました。他の場所で時々あったような説教の妨害はありませんでした。会衆が散会する時に、希望者には一人一人トラクトが配られました。聴衆の態度などから判断し、また人々の印象を聞いてみたところ集会は二回とも大成功であったように思われます。

今日の午後はその牧師が説教するのを椅子に掛けて楽しく聞きました。特に「主よ、お救いください、溺れ死にそうです」というテキストの個所の説教にはたいへん興味を覚えました。それは御子イエスキリストによる救いの真理を十分に、また明確に述べたものでした。このようにすぐれた日本人の牧師がこの地方に与えられたのを心から喜んでおります。東京の神学生が二、三人この地方で夏期伝道の奉仕ができませんかとの問合せの手紙を寄こしています、この他にもこの教会出身の青年が二、三名おそらく夏期伝道に加わ

ることでしょう。

このように今年は各方面での働きが始まっていますし、それを推進する働き人は主がお立てくださったものと信じています。

洗礼の報告をいたします。最近小松に行った時に、七人に洗礼を授けました。オアキさん（青木のまちがいであろう）（牧師）が富山でも四人に同じ儀式を執り行いました。これらの二つの町には、他にも道を求める者がおり、金沢にもそのような人たちが十人以上おられます。

この手紙が届く以前に第一回のミッション会議の議事録は受取られたことでしょう。あの会は和氣藹藹として楽しく、また実りの多いものでした。初めての試みであったので、全員が十分に満足するわけにはいかなかったが会を重ねるにしたがって徐々に利するところが増すのがわかるのだらうと思います。

伝道局にぜひともお聞き届けいただきたい決議が可決されました。お願いしてあった宣教師の派遣の問題にとりかかる以前に、一層の援助と祈りをしてくださるよう訴えたいのです。事情はこういう訳です。私はあと二年で休暇が認められることになっています。医者や同僚の宣教師の勧めに従って、家族の帰国旅費を支給してくださるよう考えていただきたいと本部にお願いする次第です。たといその時になって急に、また必ずしも休暇の必要がなくなったとしてもです。

それはあらゆる点で最もよく、そして賢明な方針だと思えます。私が帰国することになればその時には私の代理を務める人、少なくとも学校の仕事を引受けてくれる人を必要とするし、どうしても置かなくてはなりません。本部としては金沢で求めている人を雇い、私の休暇をとっている間仕事をしてもらう人をさがすよう、さらに

努力してくださることでしょう。そのような人は急には現われません。大阪伝道のために追加して頼んであった人だけでなくこの件についての決議案が本国に送られました。医療宣教師に関する伝道局の処置については何も意見を述べたつもりはありません。ある派のミッションではそれが仕事としてよくないからというのでなく、宣教師本来の範囲から生じたのではないと大いに反対する者もあります。このミッションでは意見が分かれて、伝道局の決定に異議を唱える考えはミッションでは通りませんでした。

私に関するもうひとつの項目について二、三説明が必要でしょう。私の住宅の敷地を広げるのに百三十ドルの支出を求めたものです。購入したいと思っている地所が増えれば、土地の値が増しいつそう快適になるでしょう。今の敷地はまったく狭くて入口が細い裏通りに面しています。今申し上げている土地が加われば入口の感じがよくなり子供たちの遊び場にもなります。本部としても、私の敷地に続く土地を買い足したほうがよいと私が言っている主な理由はそういう訳です。わが家の子供たちには自分たちの他には遊び仲間がありません。実際、道路が唯一の自由になる場所であるのにそこでは遊ばせられません。売りに出ている土地がはたしていつ売れてしまふかわかりせん。誰れかがこの一面を買ってわが家の廂の真下に建物を建てるとしたら嫌なものです。日本人の考えでは排水などの工事は本当に迷惑な話となりそうです。早急に返事をお願いできませんか。あなたが病気のために仕事が出来ない、と二、三日前に知って心を痛めております。主が憐みをたれ、ほどなく再度立上らせてくださるものと信じています。妻からもよろしくとのこと。二ヶ月半ほど前にわが家族に加えられた赤ん坊も、皆元気で。敬具

トス・シー・ウイン